

## 明治安田生命保険相互会社

### 明治安田生命

業 種 / 金融業・保険業  
主な事業内容 / 生命保険業  
従業員数 / 42,950人

## 周 知

### 全従業員とその家族に対し「防災カード」を配付 ～従業員の社内待機には、家族の安否確認が不可欠～

大規模災害時の帰宅を抑制すべく「災害時の帰宅が非常に危険である」ことを従業員に繰り返し啓発するための防災カードを配付。また、家族の安全を早期に確認できなければ、従業員が安心して会社に待機することは困難であると考え、「家族の安全を確認するためのツール」として、全従業員の家族に対し、家族カードを配付。  
平時から従業員と家族の災害時連絡手段や避難場所等を家族と共有するよう推進している。

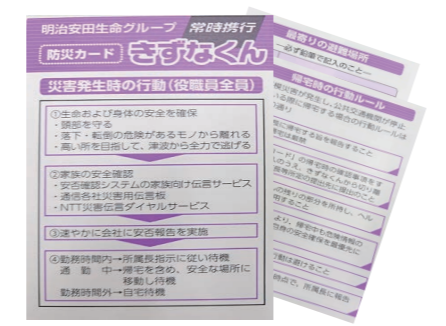
#### ■ 防災カード「きすなくん」

全国約4万人の全従業員に対して、防災カード「きすなくん」を配付。災害発生時の初期行動や安全確保に関する留意事項、安否確認システムのアクセス方法、会社や家族の連絡先などを記入して常時携帯を義務づけている。

#### ■ 家族との連絡手段を記した「家族カード」

従業員の家族に対して、家族との連絡手段を明記した「家族カード」を約20万枚配付。9月の防災週間などを活用して、「家族カード」を用いて家族間で連絡を取る訓練を定期的実施。

#### ● 防災カード「きすなくん」



#### ● 家族カード



### 家族に「社内待機」、「自宅防災」の重要性を理解してもらう 取組みを推進



従業員の家族を招き、会社の防災の取組を説明

従業員への防災意識の啓発に加え、従業員の家族にも「社内待機」の理解を深めてもらう取組みを実施している。「大きな地震があった時、どうしてお父さん、お母さんは会社から帰れないのか?」。そうした家族の想いを汲み取り、従業員の家族(子どもなど)の職場見学の機会に、会社の防災取組みや自宅における防災への取組みの重要性について説明を行なっている。会社の備蓄品倉庫を見学したりするなど、災害時の様子を家族にイメージしてもらうことで、従業員の「社内待機」について理解を深めてもらうとともに、自宅防災の重要性も認識いただく取組みを推進し、家族間で防災行動について考えるきっかけづくりの一助となっている。



#### ● 防災セミナー

社外講師を招いての防災セミナーでは、備蓄品をおいしく食べるコツなど、滞在時のストレス軽減に役立つ情報を提供している。

## 訓 練

### 災害時の役割に応じてチーム・班を設置。定期的な訓練で 役割の実効性を検証

「宿泊対策班」「帰宅対策班」等、災害時の役割に応じてチーム・班を組成して要員を年度ごとに任命。毎年、各チーム・班メンバーによる「ウォークスルー訓練」・「実働訓練」等を反復して実施。各訓練については、年度の上期までに実施し、下期以降は訓練を通じて認識した課題への対応を高度化するPDCAサイクルを推進し、各チーム・班の役割や行動の実効性を検証している。



過去に行われた「災害対策総合訓練(実働訓練)」時の帰宅対策班・宿泊対策班の訓練の様子。



#### <ウォークスルー訓練>

災害時の手順書・チェックリスト等を使用し、各チーム・班の役割や災害時の行動・手順などを机上で確認する訓練

#### ■ 宿泊対策班

宿泊することになる従業員に対し、社内での宿泊場所の指定、必要な物資(水・食料・毛布)を支給



#### ■ 帰宅対策班

帰宅のための安全が確認できた際、帰宅支援対象道路をはじめとした交通インフラの運行・利用可能状況の情報を従業員へ提供



### 拠点ごとの立地リスクに応じた初期行動確認・訓練を実施

近年、自然災害が頻発していることから、グループ会社を含む全拠点(約1500カ所)の立地リスク評価(地震・津波・洪水・土砂災害等)を実施している。各拠点に対してリスク評価の結果を開示し、「リスクに応じた安全確保のための初期行動の確認や訓練」により、自拠点の立地リスクを認識し、災害発生時に迅速かつ、明確に判断・対応する態勢を整備している。特に、津波避難訓練では、移動ルートや避難場所を確認し、地域のハザードマップ等を参考にしながら、必要に応じてルートや避難場所の見直しを行なうとともに、危険度の高い拠点に対しては、毎年、本社災害対策要員による出張防災教育も行なっている。



拠点リスクレポート(サンプル)



津波避難訓練の様子